

世の中で話題になっているニュース等について知り、考えるためのヒントを得られるような資料情報をご紹介します。

## 学びの場の多様性 ～オルタナティブスクール～

最近の新聞記事から

「個性を認めた多様な学び提供 オルタナティブスクール高まる関心」(『朝日新聞』2024年4月13日 朝刊24面)

「[新学力] 多様な学び (3) 自分で考え、決める習慣」(『読売新聞』2024年6月27日 朝刊12面)

「[新学力] 多様な学び (5) 異なる学年 混ざり合っ」(『読売新聞』2024年7月4日 朝刊12面)

\*年間連載「新学力」第3部(1)～(5)より

従来の学校教育になじめない子どもの力を伸ばす支援や、公教育では提供できない独自の教育を実践している取り組みが報道されています。学校教育法にもとづいて目的や学習内容が定められている“一条校”と呼ばれる学校に対し、民間による独自の理念をもとにした教育方針をもつ“もう一つの学校”ともいわれる「オルタナティブスクール」。不登校の子どもの居場所となる「フリースクール」(文部科学省「フリースクール・不登校に対する取組」[https://www.mext.go.jp/march\\_lion/torikumi\\_futoukou.htm](https://www.mext.go.jp/march_lion/torikumi_futoukou.htm))とは異なる、保護者や子どもが選んで通う「新しい学びの場」に関する資料を紹介します。

書名・記事・論文名	出版情報・サイト情報など
最新教育キーワード 165 のキーワード で押さえる教育	藤田晃之編著 時事通信出版局 2024 中央：3704/163/24 <span style="float:right">図書</span>
「オルタナティブスクール」「フリースクール」を含む、学校・学習支援機関から学びを支える理論まで、教育に関わる「今」を理解するための厳選したキーワードを取り上げ解説している。	
特集1 どうする 日本の学校 特集2 「学習支援」のゆくえ	『教育』(No. 892 2020年5月号) p4-51, p57-89 東部 <span style="float:right">雑誌</span>
特集1で、本来は多様であるはずの子どもたちを学校の規律・秩序に一律にあわせてしまう構造がどのように生まれるのかを明らかにし、特集2で、学校の外側で子ども一人ひとりのニーズに応える学びの場をつくり出している取り組みを紹介し、学校を、自由に能動的に生きる人格の形である子どもに合わせていく新しい「空間の枠組み」に替えていく方法を模索している。	
特集2 もう一つ《オルタナティブ》の教育をもとめて	『教育』(No. 894 2020年7月号) p58-89 東部 <span style="float:right">雑誌</span>
時間割に収まらない多くの科目や「活動型」授業を展開しているオルタナティブな学校の事例を紹介するとともに、「多様な学び」をめぐる法制化の動きとそのジレンマについても言及している。	
別様な市民が創るオルタナティブな学び場の公共性：〈縁側〉をもつ応答的包摂型公教育の生成へ	吉田敦彦著 『教育学年報 14』 世織書房 2023 p29-56 中央：3705/9/14 <span style="float:right">図書</span>
「公教育を問い直す」特集の一篇。「オルタナティブな学び場」を「別様の価値を持つ教育主体によって、市民セクターで自発的に創出された学び場」と定義。シュタイナー教育を取り入れた市民立のオルタナティブスクールの事例を紹介。本特集で、日本の公教育のあり方や現在進行中の公教育の変容や背景を俯瞰できる。	

<b>日本型公教育の再検討 自由、保障、責任から考える</b>	大桃敏行編 岩波書店 2020 中央：3731/86 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">図書</div>
<p>誰が、どのようにして教育や学習の機会を保障するのか？一条校を核とした既存の日本の公教育の変容や課題、次の形態への模索について、それを取りまく家庭や地域社会、民間組織の参入、アメリカの状況などとともに考察している。</p>	
<b>クリエイティブ・ラーニング 創造社会の学びと教育 リアリティ・プラス</b>	井庭崇編著 慶應義塾大学出版会 2019 中央：3704/162 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">図書</div>
<p>「つくる中で学びを深める学び方」の理論に基づくオルタナティブスクールにおける、探究型の学びの実践を通して、新しい教師の立ち位置を示している。</p>	
<b>子どもが面白い学校を創る 平川理恵・広島県教育長の公立校改革</b>	上阪徹著 日経 BP 2022 中央：37217/4 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">図書</div>
<p>主体的・対話的で深い学びの実現のため、全校生徒が国際バカロレア（国際的な教育プログラム）を履修する公立校やイエナプラン教育校を設立した、広島県教育長（民間経験のある女性）の4年にわたる教育改革の軌跡。</p>	
<b>異才、発見！ 枠を飛び出す子どもたち</b>	伊藤史織著 岩波書店 2017 中央：3715/74 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">図書</div>
<p>著者自身の「ちょっと変わった子」の子育てを振り返るとともに、枠からはみ出した子どもの特化した才能をつぶさない学びを支援するプロジェクトを取材し紹介している。</p>	
<b>変容する世界と日本のオルタナティブ教育</b>	永田佳之編 世織書房 2019 中央：3715/80 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">図書</div>
<p>世界の13か国におけるオルタナティブ教育の現状、問題点、課題を各国ごとに整理し、オルタナティブ教育の規定や可能性を追究し、多様性を基盤とする教育社会のあり方を論じている。</p>	
<b>生徒の未来を支えるオルタナティブ高校の挑戦 解決志向の学校をつくろう！</b>	シンシア・フランクリン著 金子書房 2022 中央：3715/100 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">図書</div>
<p>様々な困難な事情を抱える生徒たちを受け入れ、卒業と大学進学までを支援するテキサス州の高校。「聴き、選び、そして築く」メンタルヘルスに介入する解決志向のプログラムを創造することで、生徒たちの将来を切り開いてきた教師と学校の実践記録。</p>	
<b>審議のまとめ～多様性を認め合う個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の一環として～</b>	<p>「特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議」（令和4年9月26日）          文部科学省 初等中等教育局教育課程課教育課程企画室  <a href="https://www.mext.go.jp/content/20220928-mxt_kyoiku02_000016594_01.pdf">https://www.mext.go.jp/content/20220928-mxt_kyoiku02_000016594_01.pdf</a> <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">Web 情報</div> </p>
<p>中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」(中教審第228号)(令和3年1月26日)(<a href="https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm">https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm</a>)等を受けて設置された、才能や特性があるがゆえに学習上、生活上の困難を抱えている子供たちへの支援について検討している会議(<a href="https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/169/index.html">https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/169/index.html</a>)の報告。子どもたちの困難に着目して、その解消として「学校外の学びの場を活用すること」をあげている。</p>	

(インターネットの最終確認日：2024年10月25日)

作成：千葉県立中央図書館